

	学校だより	令和6年9月3日	
	ときめきにあふれ、個性が光り合う、 あったかい学校づくり	NO. 19	

挑戦する2学期に！打ち込む2学期に！

【2学期始業式の式辞より】

この夏休みはパリオリンピックが開催され、大きな感動を与えてくれました。日本人選手の活躍は見事でした。特に、選手たちの試合後に語った言葉には、私たちの心を動かす名台詞がたくさんありました。

- 「ここで一步下がってしまうと今後の柔道人生につながらないと思った。踏み出した一步は、必ず何かにつながると信じている。」(柔道の阿部詩選手)
- 「主将としてもエースとしても力不足だった。でもみんなベストなプレーをしてくれた。最高のチームだった。」(バレーボールの石川祐希選手)
- 「金メダルじゃなかったら価値がないと思っていた。負けたのに再び信じてくれ、励ましてくれた方のおかげ。感謝したい。」(レスリングの須崎優衣選手)

これらは、めざしていた結果が得られなかった選手です。私たちは、金メダルを勝ち取った光が当たる所ばかりに目がいきがちですが、これはほんの一握りであり、多くが悔しい思いをした選手ばかりです。負けて悔しい思いをした人が、気持ちを整理し、今の自分を見つめて語る。そして次に向けて再び挑戦しようとする気持ちが、私たちに大きな勇気ややる気をもたらしてくれます。

私たちは、誰もが「失敗する時がある」「不安でしょうがない時がある」「うまくいかない時がある」。その時が最も大事です。気持ちをどう整理するか。そのまま逃げ出すのではなく、次への望みを抱いて再び挑戦すること。また、そのような時こそ、自分を支えてくれた周囲の人のありがたさにも気づかせてくれる。

とても心を動かされたパリオリンピックでした。そして、悔しい思いをした選手たちは、新たな目標を掲げ、さらに大きな活躍と魅力的な生き方を私たちに見せてくれることでしょう。

いよいよ今日から2学期が始まります。この2学期は皆さんの個性を生かして活躍できる機会がたくさんあります。だからこそ、様々なことに「挑戦してほしい」。新たな自分の良さを見つけられるはずです。そして、何かにとことん「打ち込んでほしい」。一心不乱になって打ち込み、成し遂げる喜びを感じることができるはずです。そんな姿をたくさん見せてください。

全国中学校体育大会での入賞おめでとう！

8月中旬に全国中学校体育大会が北信越地方で開催され、陸上競技では千秋仁さん(3年)が棒高跳びで8位に入賞、新体操では眞鍋凜さん(3年)が総合9位に入賞しました。この全国大会での大活躍を称えるとともに、今後も続いていく挑戦に対して心からエールを贈ります。

